



茅ヶ崎市教育センター
Chigasaki Education Center

子どもたちのために
ともに教育環境を考える
教育センターの教育情報誌

学びあう響きあう

第10号

平成28年1月8日発行

編集担当/茅ヶ崎市教育センター
住所：茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号
☎ 研究研修担当（市青少年会館3階）
☎ 0467-86-9965
☎ 青少年教育相談担当（同館2階）
☎ 0467-86-9963
URL: <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/1005049/index.html>

幼児期の教育についての研究から見た

「受け止め」「寄り添う」ことの大切さ

親であれば子どもへの心配は尽きません。しかし、親が子どものことで悩んでいる時は、子ども自身も悩みを抱え、生きにくさを感じているかもしれません。そういった時、子どもの気持ちを「受け止め」「寄り添う」ことで、見えてくることもあるのではないのでしょうか。第10号では、子どもへの関わりで参考になる2つの講演内容をご紹介します。



【Contents】

- 「思春期の子どもとどう関わるかー子どもにやっていいこと、いけないこと」より抜粋
鶴が峰心理グループ代表責任者 ヴィヒャルト千佳こ氏、子育て・子育て出前講座、平成27年5月31日（日）
- 「『性同一性障害』って何だろう？ー多様な性をもつ子どもの理解と支援について考える」より抜粋
特定非営利活動法人 ReBit 氏、響きあい教育セミナー、平成27年8月20日（木）

思春期の子どもとどう関わるかー子どもにやっていいこと、いけないこと

平成27年度開催「子育て・子育て出前講座」より抜粋
（講師 ヴィヒャルト千佳こ氏、H27.5.31開催）



思春期までに身につけておくべきもの

「自尊心」「自己肯定感」は、思春期までに身につけているべきものです。

自尊心は、母性によって育まれます。母性は、条件なしに存在を認めるという無条件の存在承認、言葉がけやスキンシップを通して、情緒的關係が深まるという愛着関係の側面をもっています。特定の一人が安定して向き合うことで、子どもは心が安定し、不安に強い子になるとも言われてい

ます。特定の一人から、自分が大事にされる経験を通して、人を大事にすることを覚えていきます。

自己肯定感、父性によって育まれます。父性には、教育や評価という側面があります。つまり、子どもによりよく生きることを教え、生きる指標を与える役割があると考えられています。

父性は、母性と違い、特定の一人でなくてもよいのです。子どもは、家庭・学校・地域などのさまざまな場面で、父性をシャワーのように浴びる機会があるのです。

自尊心と自己肯定感

母性によって自尊心、父性によって自己肯定感が育まれますが、子どもが身につけていく順番は、自尊心、自己肯定感の順がよいとされています。なぜなら、自己肯定感が先だと、条件付きの自己肯定になってしまうからです。

父性には、教育・評価の側面があることを考えれば、「～ができたから」というのが前提になることも考えられます。しかし、自尊心は、何か「できる」「できない」ではなく、「あなたの存在

そのものが大切である」という母性による無条件の存在承認によって育まれます。子どもにとって、何より、無条件に存在を認めてもらえることが大切なのです。

思春期を前に、大人との信頼関係を築き、自尊心、自己肯定感を順に身につけることが、難しい思春期を乗り越える原動力になっていきます。

思春期とは？

思春期とは、第二次性徴が現れ、精神的に大きな変化が現れる時期のことです。子どもから大人への過渡期とも言えます。

思春期とされる年齢は、一般的に10歳から30歳くらいとされています。以前と比べ、年齢の幅が広がり、個人差も大きくなっています。

心が大きく揺れ動く時期です。そして、親からの自立をしようとする時期でもあります。

親に何か言われることへの抵抗感もち、嘘をついたり、秘密をもったり・・・。

それまで見られなかった子どもの姿に、戸惑いを覚えることもあるでしょう。

思春期の特徴は？

思春期に差しかかると、子どもには、さまざまな変化が現れます。**親からの自立や自我同一性の確立**は、その一つです。

子どもが親から自立する時、親の庇護から抜け出し、同年代の中に入っていきとうします。それには、大きなエネルギーが必要です。それゆえ、時として、親に対しての反発となって現れてくることも多いのです。

自我同一性とは、「私って何？」「私はどういう人？」「将来、私はどのような人になるのか？」など、**自己を確認**することです。

思春期の子どもは、親から離れて、同世代の中での自己の確認をしていきます。同世代の仲間に入るためには、コミュニケーションが欠かせず、仲間との共通の何かが必要になってきます。

同世代の中での自己の確認がうまくいかない時に、身体の不調や何かに依存するなど、精神的に不安定になったり、心身の不調を訴えたり、何らかの変化が見られることもあります。これらは、子どもからのサインと考えることができるでしょう。子どもからのサインを見逃さずに、子どもの気持ちに寄り添っていききたいものです。

コミュニケーションツールの変化

メディアの発達により、コミュニケーションツールも変化してきました。

それに伴い、子ども同士のコミュニケーションのとり方も、携帯やスマホによって行われる機会が多くなりました。

携帯やスマホを安全・安心に使用するためには、ある一定の知識や社会的規範が大切になってきます。

また、携帯やスマホの使用によって、**間接的なコミュニケーション**が増えました。

コミュニケーションのあり方が間接的であるがゆえ、**時間・空**

間の際限がなくなってしまうことや境界線の見えない関係に陥ってしまう危険性もあります。

自己確認するためには、同世代とのコミュニケーションが欠かせませんが、いかに、**生身のコミュニケーション**の機会をつくるかが大切であると考えます。

最近の思春期の特徴

最近の思春期の特徴について、以下のことが挙げられます。

- 知識・情報が豊富
 - 社会的規範の欠如
 - 感情の未分化
- など

気持ちに蓋をする子ども

感情の未分化は、コミュニケーションツールの変化も、大きな要因として考えられます。間接的なコミュニケーション、人間関係の変化、境界線の見えない関係、語彙の貧困（ジョージ・オーウェル 1984）などが、子どもの感情の育ちに影響を与えています。

育たない感情が、自分の気持ちに蓋をすることへとつながっているようです。

気持ちに蓋をする背景は、

- 言葉にする習慣の減少
 - 話す相手が見つからない。共感的に接してもらえない
 - 本音を言わない関係（他者とぶつかることが怖い、嫌われるのではないかという不安）
 - 悪い気持ちを抱いてはいけないと思っている
 - 悩むことはつらい
 - 悩みがあってははいけないと思
- などが挙げられます。

子どもたちの感情を育てるには

生身のコミュニケーションが大切です。

それには、親が子どもと生身のコミュニケーションを交わす必要があります。

子どものことを肉眼で見ること、子どもの視線・まなざしに合わせることで、「この子はどういうタイプなのか」とその子を見極

めることができるのではないのでしょうか。そして、そうすることで「人それぞれ大人へのなり方がある」と思うこともできるのではないのでしょうか。

生身のコミュニケーションによって、子どもの感情だけでなく、親としての自分の感情を育てることにもなるのかもしれませんが。

さらに、生身のコミュニケーションの際、**子どもの気持ちを言語化**することで、子どもは自分の感情に気づき、自分の気持ちを言語で表現することを学びます。

また、**共感性**があると、子どもは自分の気持ちを言いやすくなり、心理的に大きく支えられます。

思春期の子どもは親に何を望んでいるか

子どもは、大人から声をかけられるのを待っています。

「あなたの味方だから大丈夫」「あなたを守るから」という親からのメッセージを、子どもは一番望んでいるのかもしれませんが。

親として、思春期の子どもに向き合うのは、大変なことです。

しかし、親が子どもの気持ちに寄り添い、共感することで、子どもは安心感をもつでしょう。

他人の支援、他人と親密で安心できる関係があれば大丈夫と言われています。

思春期の子どもに特にしてはまずいことのポイントは？

- ①子どもに言いたいことの全てを言ってしまうこと
- ②子どもの全てを知ろうとすること
- ③親の理想を押しつけようとする
- ④子どもに無関心になること

①・②・③のように、親の必要以上の干渉は、子どもの大きな反発を招きます。

また、子どもにとって一番怖いのは、④のように、親が自分に関心がないとわかることです。

そう考えると、とても難しいこ

とですが、「突き放さず、後追いを
するが捕まえてはならない。」
という関わりを、思春期の子ども
をもつ親として心掛けていかな
ければならないでしょう。

これからの子どもに何が大切か

- 人間らしさ
- 生身の感覚
- アナログ感覚

デジタル・ネット社会だからこ
そ、子どもにとって必要なこと
です。「人間を教えるのは人間」と
いうことを、私たちは忘れずに
いたいものです。

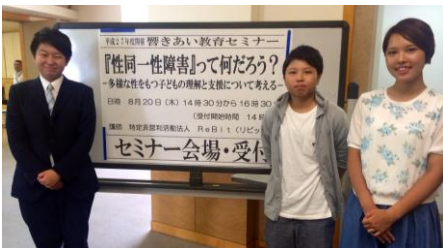
「子どもたちに、強い人間を
目指してほしいのではない。しな
やかに生きることが大切で、助け
が言える人、人の役に立つ人より
自分を大切にできる人になって
ほしい。」というヴィヒャルト先
生の言葉から、思春期の子ども
に対して、思いや願いをもって向
き合うことの大切さを感じました。

【研究研修担当】

性同一性障害ってなんだろ う？—多様な性をもつ子 どもの理解と支援について考 える—

平成 27 年度開催「響きあい教育セ
ミナー」より抜粋
(講師 特定非営利活動法人 ReBit、
H27. 8. 20 開催)

今回は、LGBT (後出) を含め
た全ての子どもがあらひのままで
大人になれる社会の創出をめざ
す ReBit の皆さんにお話を伺いま
した。



セクシュアリティの 4 要素とは

セクシュアリティには、次の 4
要素があります。

からだの性 : 外性器・内性

器・性腺・性染色体の状態や、性
ホルモンのレベルなどから定め
られる。

こころの性 : 自分で自身の性
別をどのように認識しているか
を表す。

好きになる性 : 恋愛や性愛の
対象となる性を表す。

表現する性 : 服装や行動、振
る舞いなどにみる社会的な性別
を表す。

これら 4 つの性によってその
人のセクシュアリティ (性の在り
方) が決まります。

LGBT とは

セクシュアルマイノリティ (性
的少数者) を総称して LGBT と
いうことがあります。LGBT とは
それぞれ次のような人のことです。

- L レズビアン (女性同性愛者)
女性として女性が好きな人。
- G ゲイ (男性同性愛者)
男性として男性が好きな場合。
- B バイセクシュアル (両性愛者)
男性・女性どちらも恋愛対象
となる人。
- T トランスジェンダー
からだの性とこころの性が一
致しない人。

○からだの性が男性、こころの性
が女性の人を M t F (Male to
Female) と言います。

○からだの性が女性、こころの性
が男性の人を F t M (Female to
Male) と言います。

○トランスジェンダーのうち、一
定の医学的基準にあてはまる場
合、性同一性障害との診断名で表
現されます。

男女の二分化はあくまで便宜
上のもので、実際は、性はグラ
デーションで人の数だけ性の多
様性が存在しているとも言えま
す。また、LGBT の人は日本国内
に約 7.6%、約 13 人に 1 人の割
合でいると言われています。

家庭や教育現場で LGBT を 意識してほしい理由

セクシュアリティは性や恋愛の

話だけでなく、進路・就職・パー
トナー・老後など、人生設計に深
く関わるアイデンティティの一
部です。

しかし、学校教育の中で LGBT
や多様な性に関して知る機会が
あった人は約 9% しかいません。
LGBT の人が LGBT に関する正し
い知識を得られる機会がないと、
自分への嫌悪感が内在化し、人間
関係の障壁、将来への不安、自尊
感情の低下へとつながります。

事実、調査によると、LGBT 当
事者の約 68% がいじめや暴力を
受けたことがあると答えています。

また、トランスジェンダーの約
29% が不登校を経験したことが
あり、約 69% が自殺念慮 (自殺
したいという気持ち) を抱いたこ
とがあり、約 29% が自傷・自殺
未遂を経験したことがあると答
えています。

LGBT の自死念慮の第 1 ピーク
は中学～高校の第二次性徴期で
すが、9 割以上の生徒に情報が行
き渡っていないと、内閣府『自殺
総合対策大綱』『子ども・若者ビ
ジョン』や文部科学省の通知でも
言及されています。

LGBT の子どもが困りやすいこと

LGBT の子どもが困りやすいこ
とには次のようなものがありま
す。

●男女で分けられているもの

…トイレ・着替え・制服・健康
診断・修学旅行等の部屋、風呂
・音楽のパート分け・体育・
敬称 (さん/くん)・一人称・
持ち物の色・名簿、席順

●男女二元論、異性愛前提で進め られるもの

…保健、性教育・男らしさ/女ら
しさ・家庭科、社会科、道徳・
恋愛の話

セクシュアリティは見た目
では判断できません。

LGBT であってもなくても、家
庭や学校や職場が心地よく過
せる場であるといいなと願いま
す。そのためには、

- (1) 周りが推測で LGBT であるかないかを判断しない。
- (2) 誰に対しても、男女に二分した表現、異性愛を前提とした表現を用いない。ことが大切です。

相談を受けたときの6ステップ

それでは、LGBT の子どもから相談を受けたら、どうすればいいのでしょうか。ぜひ、次の6つのことを心掛けてください。

- (1) **最後まできちんと話を聴く**
 - ・初めて人に話すという子どもも少なくありません。他の人がいない場所に移動するなど安心して話せる環境づくりを意識してください。
- (2) **セクシュアリティを決めつけない**
 - ・自分のセクシュアリティを決められるのは、自分だけです。その子のセクシュアリティを否定したり、決定を促したりしないでください。
- (3) **「話してくれてありがとう」を伝える**
 - ・その子が安心して今後も相談できるような声かけをしてください。
- (4) **どうして伝えてくれたのか、何に困っているのかを聴く**
 - ・例えば、「性同一性障害だからこの対応」、「同性愛だからこの対応」というマニュアルはありません。
 - ・何に困っているのかは、一人一人異なります。その子が何に困っているのか、どういう対応を求めているのか、どんな対応ならできるのか、対話しながら進めてください。
 - ・希望の実現が難しい場合はその理由を伝え、一緒に代替案を考えてください。
- (5) **誰に話しているか、話しているかを確認する**
 - ・あなたを信頼し、あなたにだけ話しているという場合があります。
 - ・特に、友人や保護者への共有を拒むこともあります。

- ・本人の同意なく、第三者に伝えることは避けてください。
- ・ただし、生命の危険等の緊急性がある場合等、チームでの取り組みが必要な場合もあります。
- (6) **つながるための情報を伝える、親や先生もつながる**
 - ・LGBT の本や電話相談、自助団体を必要に応じて伝えてください。
 - ・あなた自身も匿名性を守りながら相談機関へ相談することをためらわないでください。

周りの子どもへの対応

- 他の子どもが「ホモきもい」など LGBT に関して揶揄したときは、見過ごさず注意してください。注意をするときには、
- ・「なんでキモいの?」「自分が言われたらどう思う?」など考えさせるきっかけをつくる。
 - ・「傷つく人がいるんだよ」と理由を明確にする。
- ようにしてください。他の人権問題と同様の対応をしていただければ幸いです。
- また、いじめ・揶揄の場面に遭遇したときには、
- ・いじめられている子が LGBT とは限らない。
 - ・いじている子自身が LGBT かもしれない。
 - ・いじめや大人の対応を見ている子の中に、LGBT の子もいる。
- ということを思い出していただければと思います。

相談しやすい人であるために

- セクシュアリティのことは相談しづらいものです。その相談しづらいことを相談してもらうためには相談しやすい人である必要があります。セクシュアリティのことを相談しやすい人とは、次のような人です。
- (1) **話を聴いてくれる**
 - (2) **LGBT をネタにしない**
 - (3) **「男性・女性だけじゃない」ことを知っている**
 - (4) **「異性愛者だけじゃない」ことを知っている**

- (5) 「LGBT を知っている、知りたいと思っている」ことを伝えてくれる
- (6) 他の多様性へも理解が深い

LGBT を知っていることを伝える方法

上の(5)の「LGBT を知っている、知りたいと思っている」ことを伝えるには、次のような方法があります。

- ①**情報発信**
 - ・LGBT のニュースや記事について話す。
 - ・学級通信などの配付物や、掲示物などに書く。
- ②**経験発信**
 - ・自身の身近に LGBT の人がいることを話す。
 - ・LGBT に関する話を講座などで聴いたことを話す。
- ③**さりげない発信**
 - ・LGBT に関する書籍を家・職場に置く。
 - ・6色のレインボー (LGBT のシンボル) グッズを身に付ける。家・学校・職場に置く。

まとめ

- (1) 皆さんの関わる子ども・家族・友人・同僚の中にも LGBT の人はいます。
 - (2) 「LGBT にとって」だけでなく「みんなにとって」心地よい場であっていただけたらと思います。
 - (3) 最適な対応は一人一人異なるため、その人(子)との対話の中で対応を考えていくことが重要となります。
 - (4) “相談しやすい人”であるために、今日からできることがあります。
- *****
- ReBit の皆さんのお話を伺って、人には多様な性があることを知りました。LGBT に限らず、どんな子どもも、自分の常識や尺度で判断することなく、ありのまま認めることの大切さを感じました。

【研究研修担当】